

# 岩手県感染症週報

平成15年第2週（1月6日～1月12日）

岩手県結核・感染症情報センター

## 第2週の概要

### 1 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 3 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 2 類感染症

- 盛岡保健所管内から細菌性赤痢の報告が5例ありました。いずれも家族内感染が疑われています。

### 4 類感染症（全数把握対象疾患）

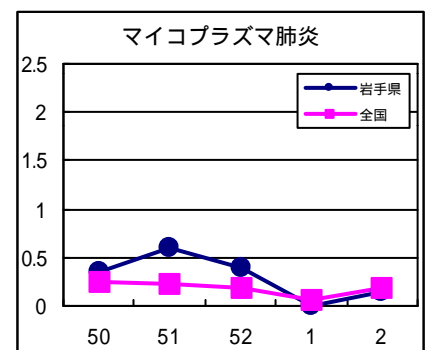
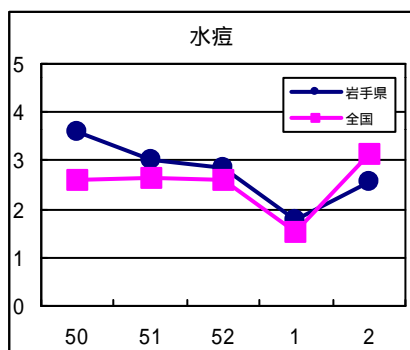
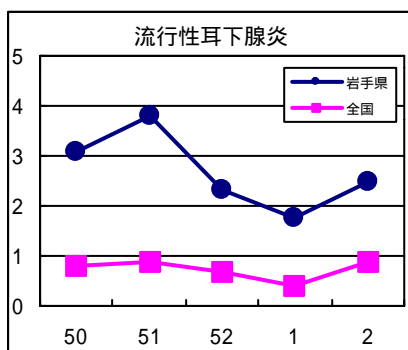
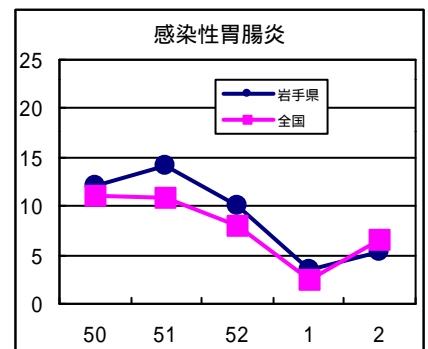
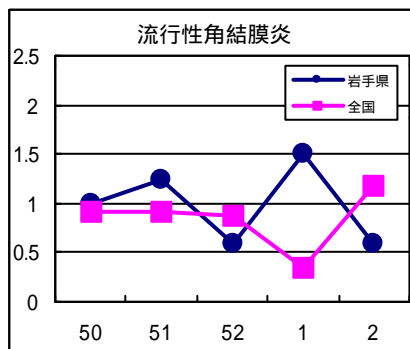
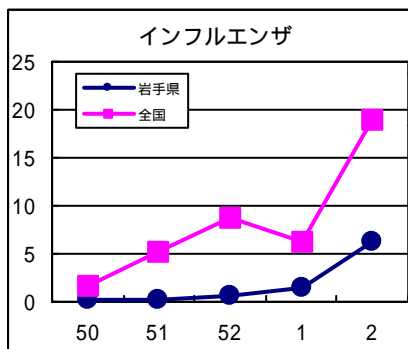
- 患者発生の報告はありませんでした。

### 4 類感染症（定点把握対象疾患）

- インフルエンザはこの週に急激に増加しました。患者数は前週の約4倍に増えており、本県でもインフルエンザの本格的な流行シーズンにはいったものと思われます。来週からは小中学校などで新学期が始まるので、集団感染の予防など、これから注意が必要です。
- 前週は年末年始にかかっていたため患者数は全般に少なめでしたが、この週には多くの疾患で患者数が増えています。
- 流行性耳下腺炎は依然として各地で患者数が多くなっています。特に、花巻、水沢、釜石、久慈地区では昨年から患者数が多い状態が続いています。

## 最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向
		50	51	52	1	2	
インフルエンザ	岩手県	0.16	0.19	0.63	1.45	6.26	↗
	全国	1.65	5.22	8.71	6.22	18.95	
咽頭結膜熱	岩手県	0.03	0.05	0	0	0.03	→
	全国	0.12	0.14	0.12	0.05	0.08	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	0.82	0.87	0.58	0.18	0.42	→
	全国	1.46	1.51	1.04	0.31	0.86	
感染性胃腸炎	岩手県	12.03	14.24	10.05	3.53	5.34	↗
	全国	11	10.94	8.08	2.41	6.54	
水痘	岩手県	3.61	3	2.84	1.79	2.58	↗
	全国	2.61	2.64	2.59	1.52	3.15	
手足口病	岩手県	0.05	0.11	0.24	0.03	0.05	→
	全国	0.31	0.3	0.21	0.06	0.1	
伝染性紅斑	岩手県	0.42	0.39	0.24	0.18	0.34	→
	全国	0.22	0.26	0.22	0.09	0.28	
突発性発疹	岩手県	0.32	0.55	0.26	0.29	0.34	→
	全国	0.67	0.67	0.57	0.24	0.65	
百日咳	岩手県	0	0.03	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0	0.01	
風疹	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0	0.01	0.01	0	0.01	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.08	0.11	0	0.03	0	→
	全国	0.05	0.06	0.05	0.01	0.03	
麻疹（成人麻疹を除く）	岩手県	0	0	0.03	0.03	0	→
	全国	0.04	0.03	0.03	0.02	0.04	
流行性耳下腺炎	岩手県	3.08	3.82	2.32	1.76	2.47	↗
	全国	0.79	0.87	0.7	0.39	0.88	
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0.08	→
	全国	0.03	0.03	0.05	0.01	0.05	
流行性角結膜炎	岩手県	1	1.25	0.58	1.5	0.58	↘
	全国	0.92	0.92	0.87	0.35	1.18	
急性脳炎（日本脳炎を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0	0	0	0.01	0.01	
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.02	0.01	0	0	0.02	
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.05	0.02	0.02	0.02	0.02	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.35	0.6	0.4	0	0.15	→
	全国	0.24	0.23	0.18	0.06	0.19	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0	0	0.02	
成人麻疹	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0	0.01	0	0	0.01	

全数把握対象疾患（過去5週の動き）

（患者発生数）

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 50	51	52	1	2	累計	2	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類 感染症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	3	0	1	0	5	5	15	21
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	9	14
四類 感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	2	2
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	8	11
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	4
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	4	6
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	1	1
	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ツツガムシ病	0	0	0	0	0	0	6	7
	デング熱	0	0	0	0	0	0	1	1
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳児ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	4	4
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	1
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	1	1	
ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

「ウエストナイル熱」が平成14年11月から新たに四類感染症に指定されました。

## 今注目の感染症

### インフルエンザ

「かぜの大部分はウイルスが原因ですが、原因となるウイルスにはアデノウイルス、ライノウイルス、RSウイルス、コロナウイルス、インフルエンザウイルスなど100種類以上が知られています。インフルエンザは、インフルエンザウイルスによるかぜですが、症状が大変重いことから、他のウイルスによるかぜ(普通のかぜ)と区別して取り扱われます。

#### インフルエンザの流行

日本でのインフルエンザの流行は毎年冬期にみられ、11月下旬から12月上旬頃に発生が始まり、翌年の1～3月頃に患者数が増加し、4～5月にかけて減少していくという発生パターンを示します。

#### インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスにはA、B、Cの3つの型があり、流行を起こすのはA型とB型です。A型とB型のウイルス粒子表面には赤血球凝集素（HA）とノイラミニダーゼ（NA）の2つの蛋白がスパイク状に突出しています。A型ウイルスのHAとNAは抗原的に多様で、HAには15種類、NAには9種類あります。A型ウイルスはHAとNAの組み合わせによりさらに亜型に分類されます。例えば、現在流行しているA香港型はHA、NAの種類によりH3N2と表します。様々な亜型のA型ウイルスが、ヒト以外にもブタやトリなどの動物に広く分布しており、動物由来の亜型ウイルスがヒトの世界にも侵入します。

A型ウイルスでは、数年から数十年ごとに世界的な大流行がみられますが、これは突然別の亜型ウイルスが出現し、従来の亜型ウイルスに取って代わることによって起こります。20世紀には、1918年に出現した新亜型（H1N1）ウイルスによるスペインかぜの大流行、1957年に出現した新亜型（H2N2）ウイルスによるアジアかぜ（H2N2）の大流行、1968年に出現した新亜型（H3N2/HongKong）ウイルスによる香港かぜの大流行の3つの大流行がありました。現在は、最後の亜型（H3N2/HongKong）ウイルスが出現してから30年以上経過していることから、新亜型ウイルスの出現が警戒されており、新亜型ウイルスによる大流行に備え対策が進められています。

#### 臨床症状

1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱（通常38度以上の高熱）・頭痛・全身の倦怠感・筋関節痛などが突然現われ、咳・鼻汁などの上気道炎症症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快します。普通のかぜに比べて全身症状が強く現れます。

#### ウイルス学的診断

患者の咽頭からウイルスを直接に分離することが病原診断の基本ですが、これには特別な設備や技術が必要であり、結果が出るまでには約1週間を要します。最近、外来あるいはベッドサイドなどで20～30分以内に迅速簡便に病原診断が可能なインフルエンザ抗原検出キットが実用化され、外来診療などで抗インフルエンザ剤の使用の可否を判断する際に有用とされています。

#### 予防(ワクチン)・治療

現行のインフルエンザワクチンはウイルスの感染やインフルエンザの発症そのものを完全には防御出来ませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果は証明されています。高齢者など罹患した場合に重症化する可能性の高い人には、積極的なワクチン接種がすすめられています。

インフルエンザに対する治療法は、これまでは対症療法が中心でしたが、1998年に我が国でも抗A型インフルエンザ薬としてアマンタジンを使用することが認可されました。アマンタジンは薬剤耐性ウイルスが出現し易いため、使用には注意が必要とされています。さらに、2001年にはノイラミニダーゼ阻害薬（ザナミビル、オセルタミビル）が認可されました。ノイラミニダーゼ阻害薬はA型にもB型にも有効な抗インフルエンザ薬で、耐性も比較的できにくく、副作用もほとんどないとされており、発病後2日以内に服用すれば症状を軽くし、罹病期間の短縮も可能とされています。

## 病原体検出情報

- ・ 12月中旬に採取した感染性胃腸炎の患者の便からノーウォークウイルス遺伝子型IIを9例検出しました。
- ・ 12月中旬から1月上旬にかけて採取したインフルエンザの患者の咽頭拭い液からA香港型インフルエンザウイルスを8例検出しました。
- ・ 12月中旬に採取した流行性耳下腺炎の患者の咽頭拭い液からムンプスウイルスを1例検出しました。

## 集団感染情報

この週には集団感染の情報はありません。

## 医療機関からの情報

盛岡地区の医療機関（小児科）からの情報です。

- ・ インフルエンザが猛威をふるい始めました。

## Q & A

質問：患者数の比較に使われる「定点当たり患者数」の意味を教えてください。

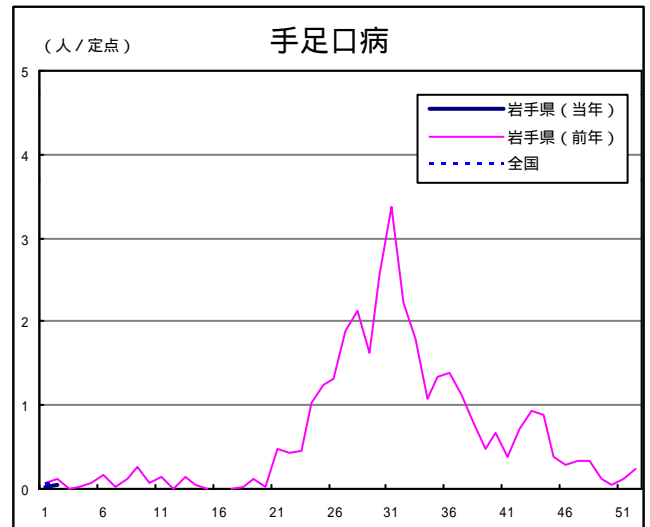
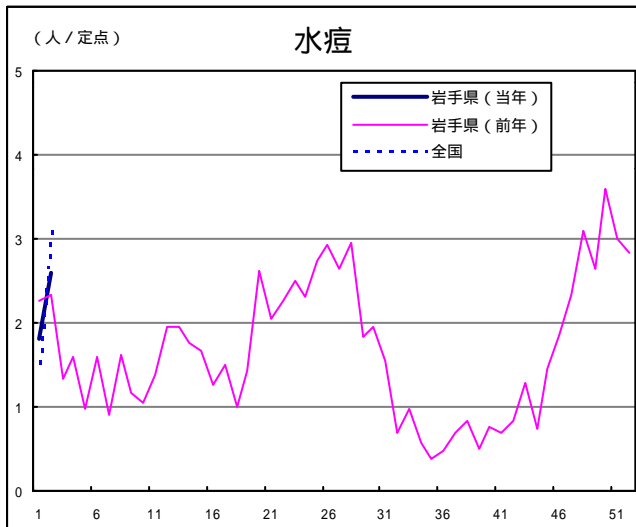
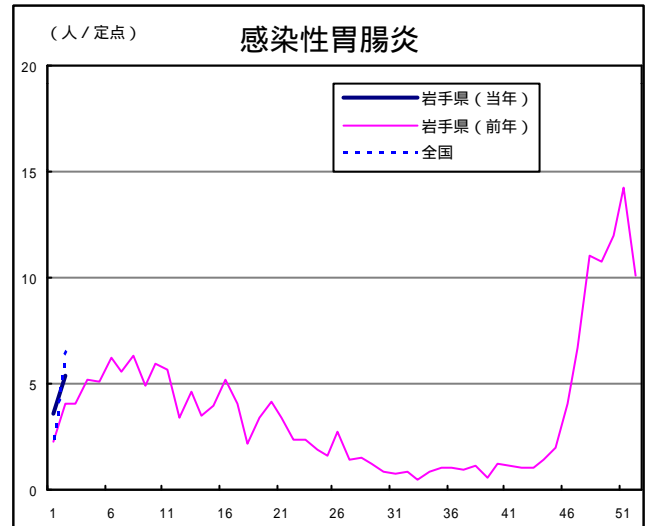
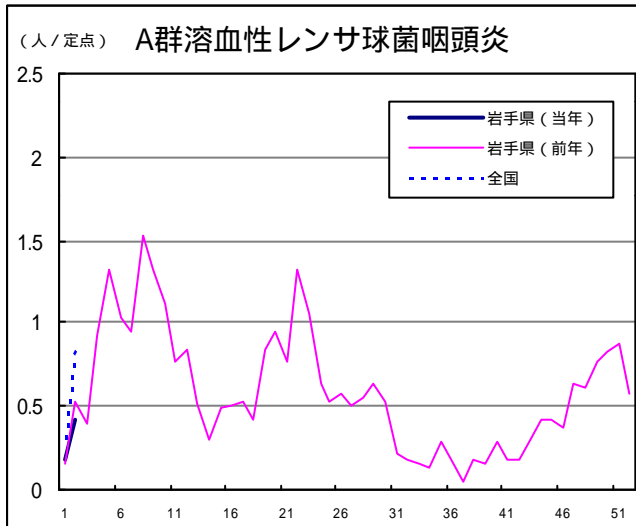
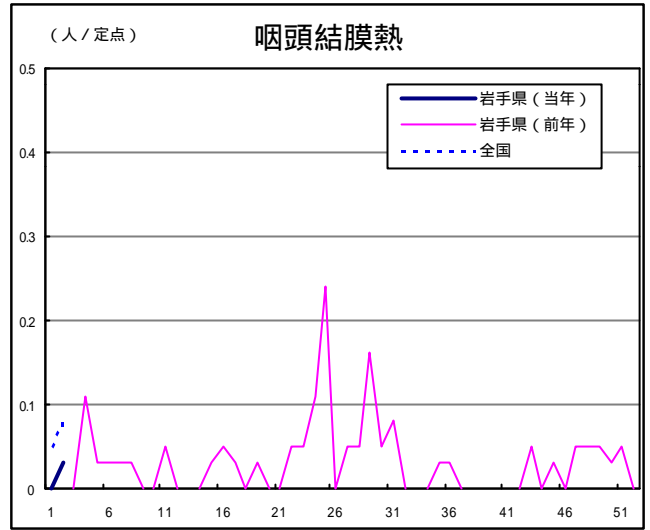
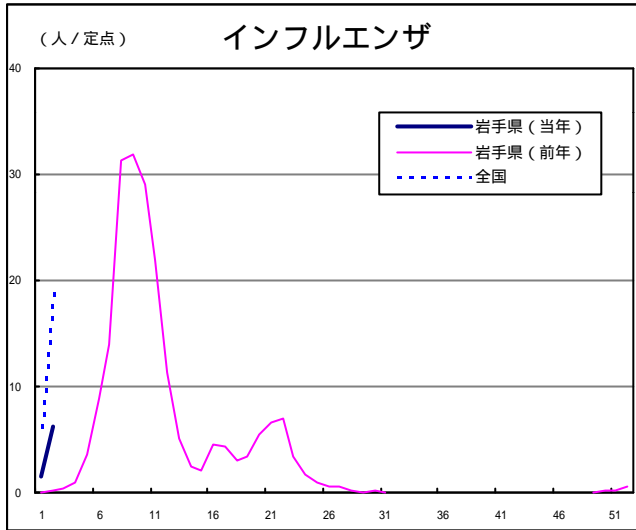
回答：感染症発生動向調査では、インフルエンザや感染性胃腸炎などの四類定点把握対象疾患については、県内の医療機関のなかから選ばれた「定点医療機関」から毎週または毎月、受診した患者さんの人数を報告していただき、当センターで集計しています。

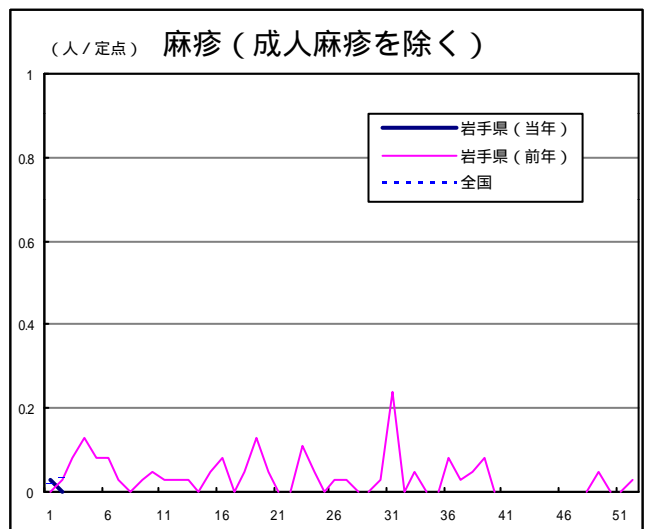
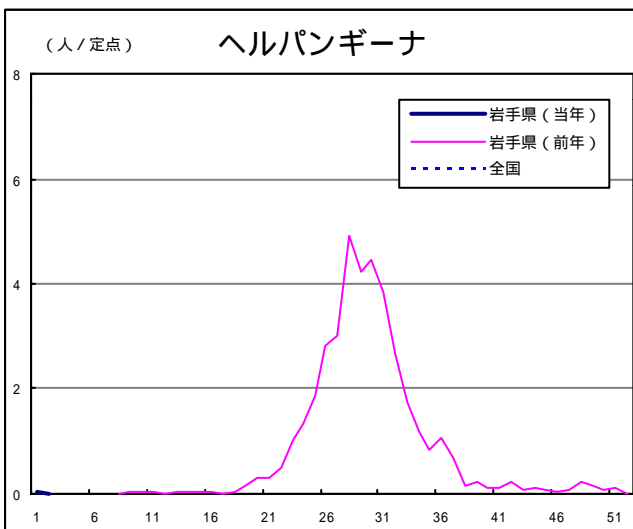
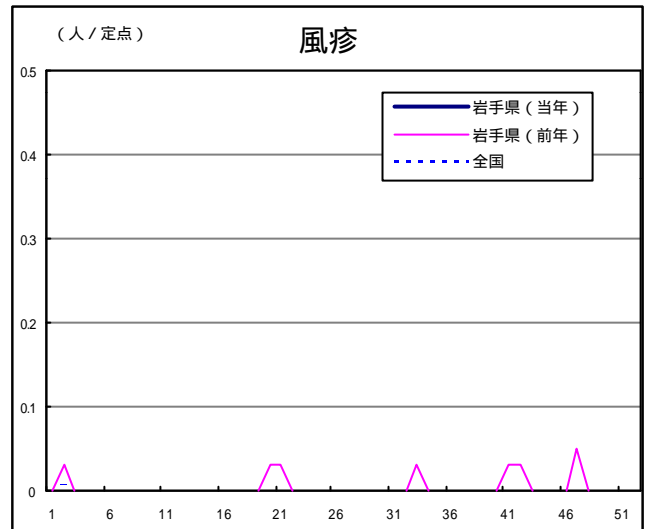
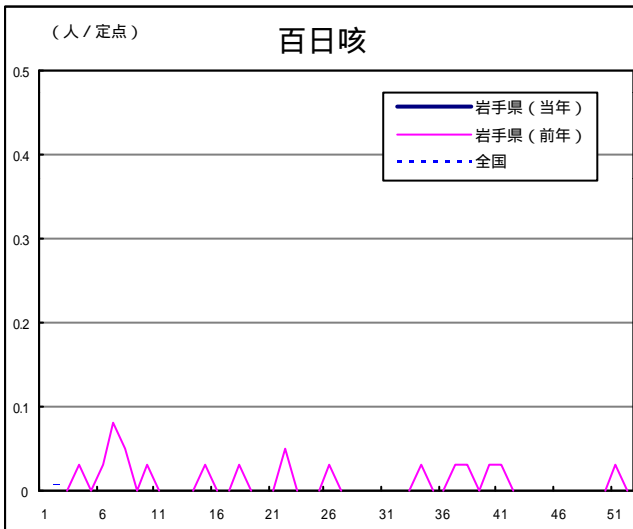
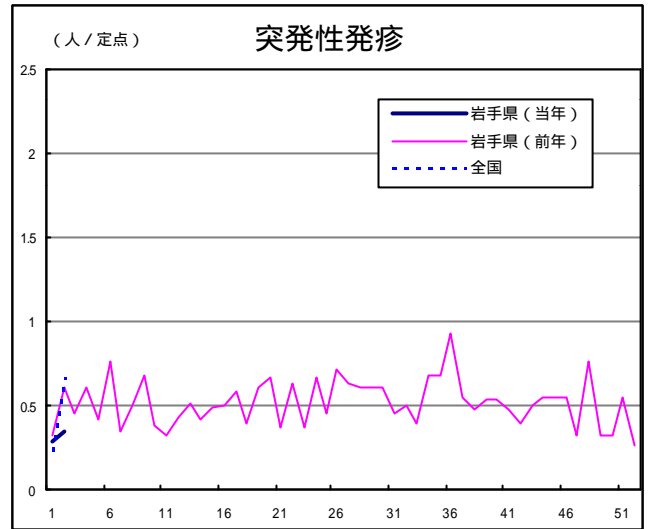
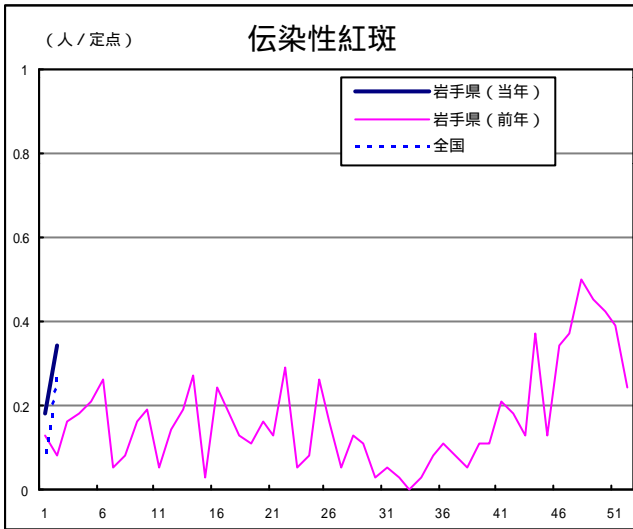
「定点当たり患者数」とは、インフルエンザなどの毎週集計する疾患では、「ひとつの医療機関でその週に受診した患者の人数」を表しています。

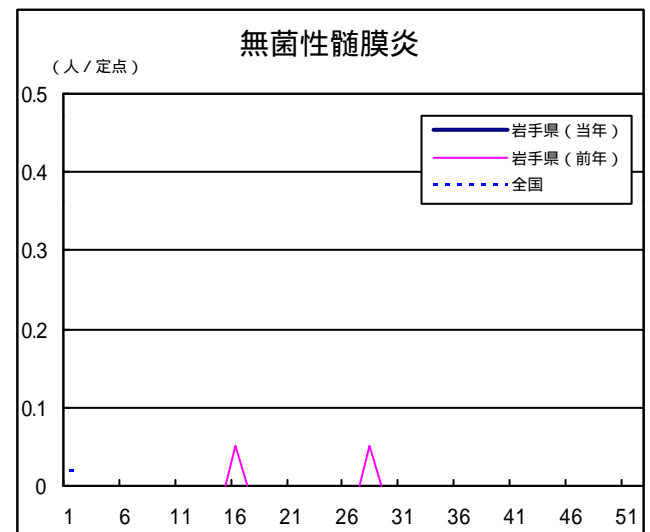
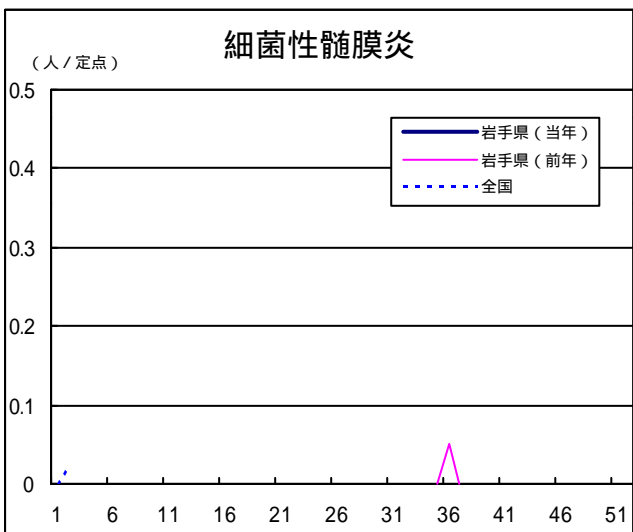
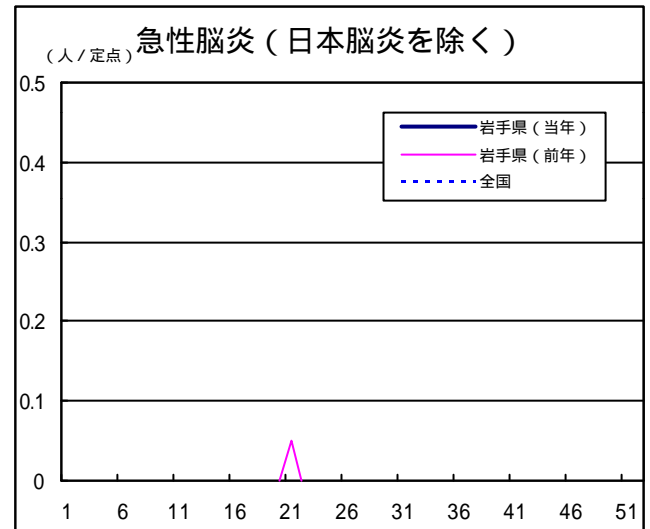
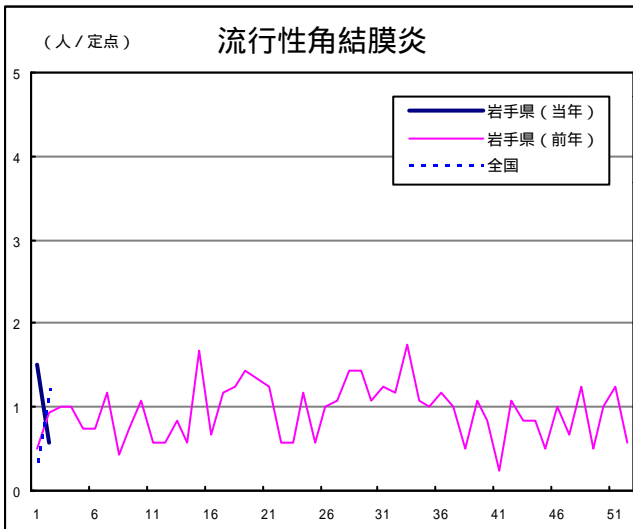
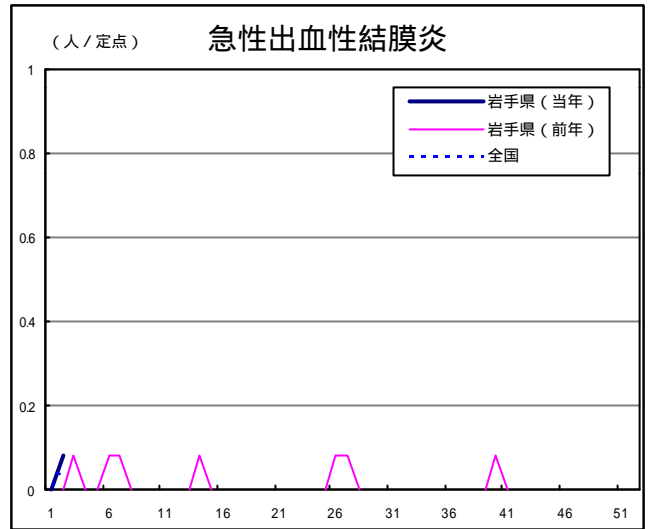
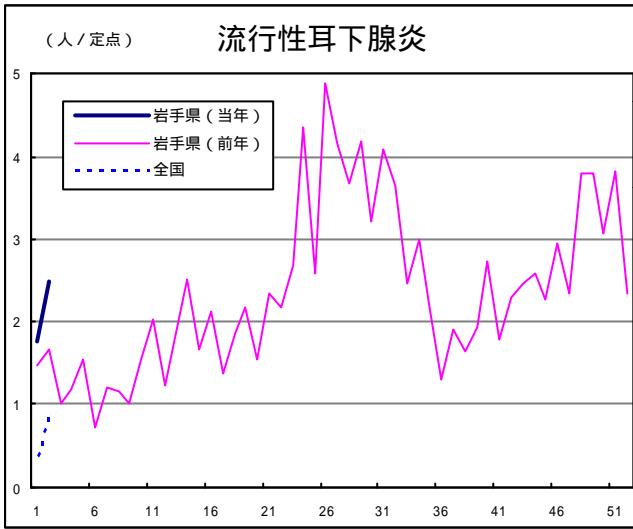
この「定点」の数は、保健所管内ごとにほぼ人口割合に応じて定められていますので、「定点当たり患者数」を使うことにより、地域間の流行状況を人口の多少に関わらず比べることができます。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記宛先までお寄せください。  
岩手県結核・感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

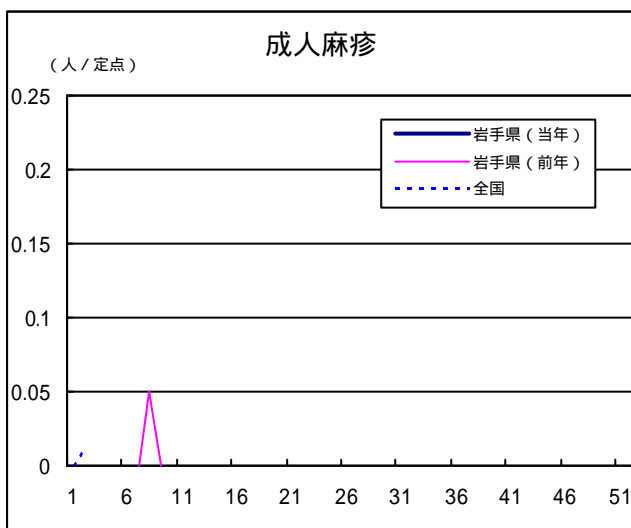
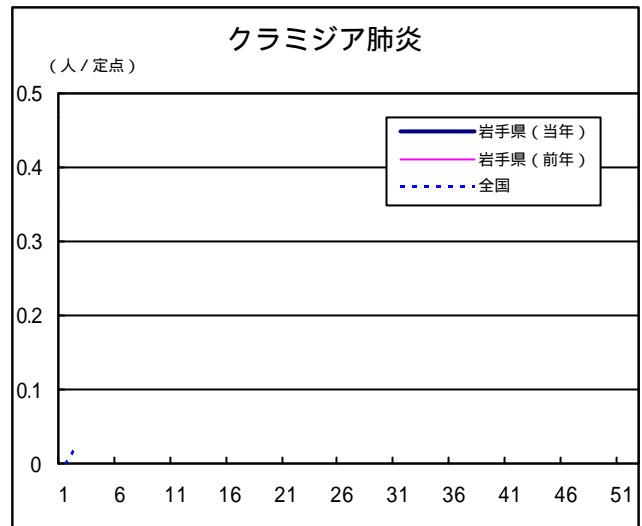
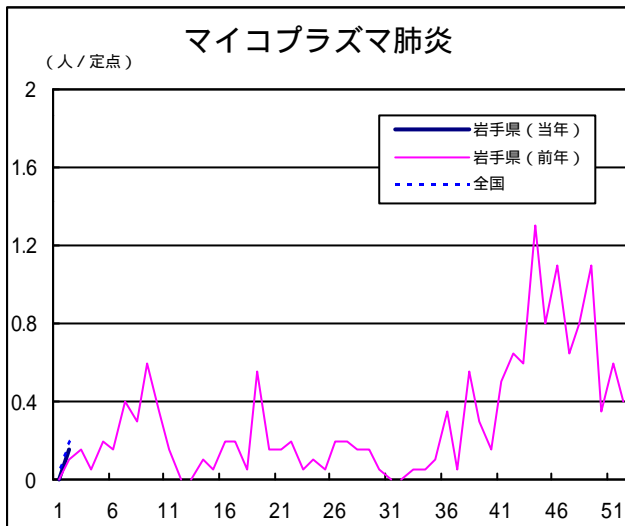
疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）











定点医療機関の数

地区	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	62	38	12	20
盛岡	17	11	3	5
花巻	5	3	1	2
北上	5	3	1	2
水沢	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	3	1	1
釜石	5	3	1	2
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする  
**「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」**の配信を始めました。  
 配信の登録は以下のURLからお願いします。  
<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成15年第2週 平成15年1月17日発行  
 監修：岩手県結核・感染症発生動向調査委員会  
 発行：岩手県環境保健研究センター  
 岩手県保健福祉部保健衛生課  
 事務局：岩手県結核・感染症情報センター  
 （岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
 〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1  
 TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
 E-mail: CC0019@pref.iwate.jp  
 URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>  
 <岩手県結核・感染症情報センター>  
<http://www.pref.iwate.jp/~hp0360/>  
 <岩手県保健福祉部保健衛生課>